

令和3年11月24日

桜川市長 大塚 秀喜 様

(仮称)桜川市複合施設設計者選定委員会

(仮称)桜川市複合施設建設事業に係る設計者選定プロポーザル審査結果報告書

(仮称)桜川市複合施設設計者選定委員会は、本件プロポーザル審査基準に基づき、慎重かつ公正に審査した結果、下記のとおり特定事業者及び次点者を選定しましたので報告いたします。

記

1 審査結果

特定事業者 佐藤総合計画・A k H建築設計室設計共同体
次点者 岡田新一設計+柴建築設計事務所建築関連業務共同企業体

2 選定委員会の経緯

- 1) 一次審査 令和3年9月25日(土)
委員長・事務局による書類審査及び一次審査通過者決定
- 2) 二次審査 令和3年10月30日(土)
技術提案ヒアリング及び評価、総合審査

3 審査の経過

- 1) プロポーザル公告【令和3年7月20日(火)】
- 2) 参加表明【令和3年8月27日(金)】
 - ・7企業体より参加表明、参加資格要件を確認
- 3) 技術提案書提出【令和3年9月15日(水)】
 - ・6企業体より技術提案書提出
- 4) 一次審査【令和3年9月25日(土)】
 - ・提案数が第2次審査で取扱可能な数であり、コロナ流行下で審査委員を招集する機会を抑えるため、大月委員長との協議・書類審査により提案者すべてを第一次審査通過とした。
 - ・プレゼンテーションの実施方法について大月委員長と協議・修正を行った。
- 5) 二次審査(ヒアリング・総合審査)【令和3年10月30日(土)】
 - ・プレゼンテーション事前審査
10:00～11:30 真壁伝承館 2階 第2会議室
 - ・プレゼンテーション及び質疑応答
12:30～16:12 真壁伝承館 まかべホール
 - ・総合審査
16:30～17:30 真壁伝承館 1階 会議室1
審査委員による協議により特定事業者及び次点者を選定

4 講評

【全体講評】

本事業においては、基本設計完了前に施工業者を求めるという非常に特殊なスケジュールを示した上、プロポーザル参加に高い実績を求めたことから、提案数は少なくなったものの、参加事業者からはいずれも質の高い提案がなされた。

第一次審査については本来、令和3年9月25日に実施する予定としていたが、第二次審査進出者を5者程度としていたところ、提案者6者の提案全てがプレゼンテーションを聴取するに値する優れた内容であったことに加え、新型コロナウイルス流行下であり、審査委員の招集機会を抑制する目的から、全提案者を第二次審査進出とした。

第二次審査は令和3年10月30日に実施された。午前に事前審査を、午後に6提案者のプレゼンテーション及び質疑応答を実施した後、最終審査を実施した。

審査において特に重視した点は「公民館機能と図書館機能の融合」「各種動線計画の適切さ」「計画の実現性」「明るさや楽しさが表現されたデザインか」「イニシャル及びランニングコスト低減の検討」「プレゼンテーションの具体性」「質疑回答の的確さ」である。

これらに基づき協議した結果、全体の配置計画の巧みさや、計画全体の完成度から伺える高い実現可能性を評価し、「佐藤総合計画・A k H建築設計室設計共同体」を最優秀賞として選定した。

次点については評価が拮抗したが、未来型の図書館運営像の提案を重視し、「岡田新一設計+柴建築設計事務所建築関連業務共同企業体」とした。

(1) 最優秀賞 佐藤総合計画・A k H建築設計室設計共同体

各フロアを「段（ステップ）」にして重ね、東西に構える棟から南側に伸びるウイングにより、桜川の景観との関係性を求めた案である。

L字型の建物が内外に様々な場を創り出す中で、吹き抜けや3階の公民館機能と関連する書架配置等に見られるように、全体を通して公民館と図書館の一体感を形成している。

全体的な配置計画が非常にバランスよくできており、今回のプロポーザルが有する現実的課題に対する実現可能性が極めて高く評価されたことから、最優秀者として選定されたものである。

基本設計に向けた今後の課題としては、事務室（カウンター）、エレベーター等と出入口の位置のバランス、高書架の現実的運用法、吹き抜けによってつながる音・匂い・空気の処理、児童書架コーナーの子どもの居場所としての適正化、デジタルミュージアムと図書館との融合性強化の検討などが挙げられた。

また、広場としている建物南側の駐車場の広さの再検討、建物幅の調整による室構成の適正化の再検討を加えれば、審査会で懸念された諸点がほぼクリアされる可能性を秘めているとの意見もあった。

いずれも今後の基本・実施設計作業の中で協議の上、十分に解決できる点であり、市側とよく検討してより良い設計へ昇華させていただきたい。

(2) 優秀賞（次点） 岡田新一設計+柴建築設計事務所建築関連業務共同企業体

建物全体を北側に寄せ、南側に駐車場を大きくまとめて配置しており、現在の公民館に近い配置計画とする案である。図書館としては非常にオーソドックスな構成であり、児童コーナーと一般図書コーナーが階を分けて計画されている点、図書館の事務・作業スペースがしっかり計画されている点等が高く評価された。

また、管理上重要となる職員による視認範囲を検討している点や、設計チームに情報管理担当を入れ、未来型の図書館運営像を描くチーム構成となっている点など、図書館設計に関して秀でている点も、実現可能性の高さとして評価された。

反面、交流施設として考えたときには公民館スペースがすべて北側に配置されている点や、エントランスと事務スペースの距離、エレベーター位置と利用者動線の関係に検討の余地がある点や、公民館と図書館の連携イメージが不足している点が懸念された。また、配置計画を北側にまとめたことで、桜川の景観を活かしきれていない点等も指摘され、最終的には未来型の図書館運営像を描く体制が評価され、優秀賞（次点）とした。

（3）優秀賞 k w h g ・石嶋・綜企画設計共同体

他のどの案とも異なり、敷地の南西側に建物を寄せ、4層の建物と別棟としたホールの2棟で構成される提案で、図書館の内容としても非常に優れた案である。

これまでにない図書館、学習空間をつくろうというアグレッシブな意欲が見て取れ、デジタルミュージアムの在り方についての評価も高かった。

そのアグレッシブでチャレンジングな内容が高く評価された反面、2棟に分けて建設する点がコストや管理面に与える影響や、多層階にまたがる図書館の管理運営面での実現性の困難さに対する懸念も強かった。

従来の図書館とは一線を画するアプローチの提案であり、プロポーザルで選定する意義が大きいという意見もあったが、全体の評価としては、本事業の重視する「実現性」や「コスト」への懸念が上記2社との評価の差となった。

（4）審査委員特別賞 伊東豊雄建築設計事務所・横須賀満夫建築設計事務所共同企業体

北側に大きなピロティを設け、駐車場とすることで南側に建物を寄せ、桜川と密接につながる空間を創り出すとともに、ほとんどの機能を2階ワンフロアにまとめて一体感を出している案である。

2階には屋上まで吹き抜けのコートヤードを、屋上には植栽により屋外庭園を設けるという、大規模な建物の緑化を計画する案となっている。

コートヤードを各機能の緩衝帯として中心に置くことにより、公民館機能と図書館機能がつながりながらある程度分けられ、回遊性を持った大きな学習空間として機能する計画となっており、屋上庭園が本と人をつなぐ空間としての活用が期待できるとして評価された。

しかしながら、北側のピロティによる駐車場が年間を通して暗い空間になると考えられる点や、屋上緑化とコートヤードのメンテナンスコストを懸念する声が大きかった。また、桜川市民の移動手段は主に自家用車であることから、南側がメインアプローチとなっている点等が当市の交通環境とマッチしていないのではないかという意見もあった。

（5）審査委員特別賞 藤本壮介建築設計事務所・増山栄建築設計事務所設計共同体

ドーナツ状の建物の真ん中に桜の木を植え、1階の南側に駐車場と北側にホールを、その他の機能を2階に配置した、全体的に一体感のある提案である。

低書架を使い、桜を中心とした格好の良い空間はワンフロアで広々としており、室内の雰囲気は高く評価された。

一方で、中心の桜が特徴的だが、計画通りうまく根付き、花が咲くのかという心配、咲いたとしても春の一時しか咲かず、残りの期間は落葉や害虫の発生、冬枯れの風景など、管理面等で問題に

なるのではないかという懸念、2階へのアプローチ空間の実現性、ワンフロアで多様な機能が一体となっている反面、音やにおいに関しても一体となる恐れがあるため、静かに過ごしたい、集中したい等の多様な利用者のニーズに十分に応えられるのかという点が心配された。

また、南側ピロティ下の駐車場が良い環境になるのかという点も不安視されている。

デジタルと本との関係をどうリンクさせるかという点についても、もう少し具体的な提案が見られれば良かったという意見もあった。

(6) 審査委員特別賞 矢吹・高田・パル総合設計 設計共同体

壁柱を採用することにより、各機能配置をうまくまとめている案である。スペースを取る閉架書庫を中二階に置いて1階に開放的な空間を実現しつつ、2階に配置した図書館を3階の公民館機能と分けることで、複合化で気になる音やにおいの問題を解決しているのが特徴的な案である。

児童生徒の利用をかなり意識した計画となっており、スマートフォン利用なども想定されていたことから、若い世代向けの図書館を実現しようという意図がうかがえ、また、バックヤードを充実させていた点も高く評価された。

一方で、南側に出た大きなピロティは、使い方によっては非常に良い空間になるところだが、そこに面する内部との関係を考慮した提案が見られなかったことから、平土間ホールとの具体的な一体利用のイメージなどが欲しいという意見があった。

効率良くコンパクトな計画ではあるが、逆に空間的余裕がないように見受けられ、市民交流のたまり場という点からは物足りなさがあった。

また、壁柱がオープンスペースに出てくることの難点や、公民館機能と図書館機能の融合が弱い点、設計者の取り組み体制についての提案が薄かった点なども懸念された。